

ブレトンウッズ体制の成立と変容

浅井良夫

1 はじめに

◆短い「ブレトンウッズ体制」＝金ドル本位制

25年間 実質的には9年間

「ブレトンウッズ体制はなぜかくも安定的である
と同時に短期間しか持続しなかったのか？」

(Michael Bordo)

- 1945年12月 ブレトンウッズ協定発効
- 1946年12月 加盟国の平価設定
- 1947年3月 IMF業務開始
- 1958年12月 西欧主要通貨の交換性回復
- 1961年2月 西欧主要諸国の8条国移行
- 1968年3月 金の二重価格制導入
- 1971年8月 金ドル交換停止のニクソン声明
- 1971年12月 スミソニアン協定
- 1973年3月 変動相場制への移行

◆第1の視点

対外均衡（国際収支の均衡）と国内均衡（完全雇用）とを両立させる国際経済システム

- 「ブレトンウッズ体制」＝国際通貨システム
- 「ブレトンウッズ秩序」（Bretton Woods Order）＝ 国際的な自由貿易と各国の自立的な経済政策を両立させる経済秩序

（David M.Andrews）

- John G.Ruggie 「埋め込まれた自由主義論」
第2次世界大戦後の自由主義は経済ナショナリズムと多角的経済自由主義の妥協の産物
- Karl Polanyi 『大転換』 *The Great Transformation: The Political and Economic Origins of Our Time*, 1944

◆第2の視点

「ブレトンウッズ体制は国際資本移動規制の時代
と重なる

Eric Helleiner 『国家とグローバル金融』
*States and the Reemergence of Global Finance:
From Bretton Woods to the 1990s, 1994*

第3の視点：ブレトンウッズ体制を支えたのはIMFだけでない

- BISへの注目

Gianni Toniolo & Piet Clement, *Central Bank Cooperation at the Bank for International Settlements, 1930-1973*, 2005

矢後和彦『国際決済銀行の20世紀』2010年

- 国連への着目

John Toye & Richard Toye, *The UN and Global Political Economy*, 2004

2 ブレトンウッズ会議

- 1941年8月 大西洋憲章
- 1943年9月～英米協議
- 1944年4月 英米妥協案成立
- 1944年7月 ブレトンウッズ会議
- 1945年9月 英米借款交渉
- 1945年12月 ブレトンウッズ協定発効
- 1946年3月 IMF・世銀創立総会（サヴァンナ会議）

Bretton Woods, Mt. Washington Hotel

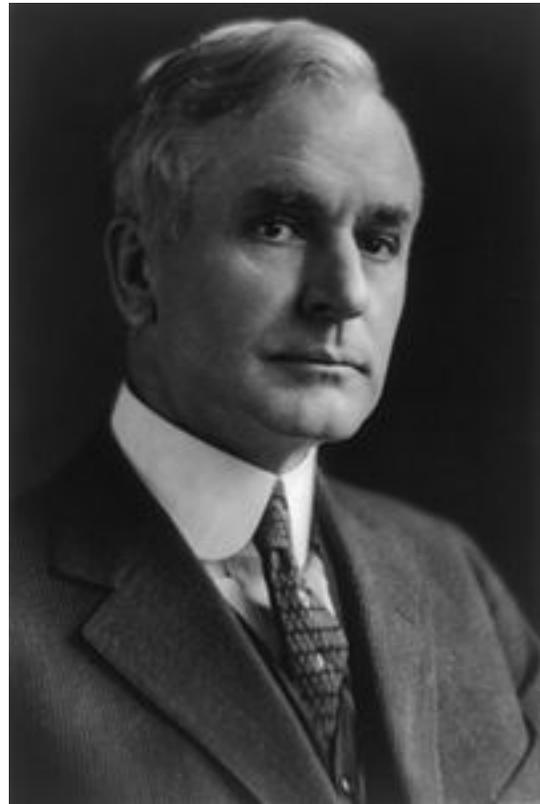


◆通商協力に関する交渉

- 1943年9月～ 通商協力に関する非公式交渉
- 1945年9月 英米妥協案の成立（「国際貿易雇用会議による考察に関する提案」）
- 1946年10月～11月 国連・貿易雇用会議設立のための準備委員会（ロンドン）
- 1947年4月、11月 国際貿易憲章作成のための会議（ジュネーブ、ハバナ）
- ⇒ GATT成立（1947年4月）

Cordell Hull(1871-1955)

Secretary of State, 1933-1944



◆ガードナーのブレトンウッズ・システム像
Richard N.Gardner,*Sterling-Dollar Diplomacy*,
1956, 2nd ed., 1969 邦訳名『国際通貨体制成立
史』

- ①多角的自由貿易主義の復活と挫折
- ②英米の対抗

⇒ Benn Steil, *The Battle of Bretton Woods*, 2013
(ベン・ステイル『ブレトンウッズの闘い』) も
同様の構図。

Keynes and White(Savannah, 1946)



初版と第2版でブレトンウッズ体制の評価が逆転

- 初版(1956年)

ブレトンウッズ協定の歴史は、多角主義の敗北の歴史であった。

アメリカが英米協力を過小評価し、世界的秩序確立の「普遍主義」に固執したことが、多角的貿易の復活を妨げた。

⇒ John H. Williams のキーカレンシー・アプローチ（ドルとポンドの協調）の方が現実的であった。

- 改訂版(1969年)

「世界経済秩序の決定を事実上独占していたポンド-ドルの外交も過去のものとなった」

「普遍主義」に立ったからこそ、IMF・世銀・GATTは世界の国々を結合する手段となった。SDR（IMF特別引出権）創設は、ブレトンウッズ会議から25年後に、ケインズがホワイに勝利したことを意味する。

3 BISの復活と中央銀行間協力

◆BIS – 創設からブレトンウッズまで

- 1929年6月 ヤング・プラン調印（ハーグ会議における正式決定は1930年1月）
- 1930年2月 BISの設立（ローマ）
- 1931年7月 フーバー・モラトリアム
- 1932年6月～7月 ローザンヌ会議
- 1944年7月 ブレトンウッズ会議で解散が決議される

Table 1.2: *Intensity of Central Bank Cooperation*

Period	International relations	Prestige and independence of central banks	Technicality of issues requiring cooperation	Overall intensity of cooperation (total score/3)
	(1)	(2)	(3)	(4)
1870s–1913	2	2	3	2.33
1920s	1	3	4	2.67
1930s	0	1	1	0.67
1950s	4*	2	2	2.67
1959–73	3*	3	4	3.33
1973–mid-1980s	3*	2	4	3.00
Mid-1980s–2005	3	4	4	3.67

Note: All rankings on a scale of 0–4.

* “Western world” only.

Hjarmar Schacht(1877-1970), Benjamin Strong
(1872-1928), Montagu Norman(1871-1950),
Charles Rist(1874-1955) 1927年7月 NY連銀



BIS 第1回非公式理事会、April 1930



◆BISの復活

- 1947年11月 第1次多角通貨相殺協定
- 1948年4月 マーシャル援助開始、IMFの「ERP決定」
- 1948年10月 第1次欧州域内相殺協定
- 1949年9月 第2次欧州域内相殺協定
- 1950年9月 EPUの成立
- 1952年 IMFのEPU諸国への融資の再開

◆1950～60年代のBISとIMF

① Per JacobssonのIMF専務理事就任

1917年 ヴィクセル、カッセルらと「経済学クラブ」創設

1920～28年 国際連盟職員

1928～31年 スウェーデン政府経済防衛委員会
事務局長

1931～56年 BIS職員（金融経済局長、調査局長を歴任）

1956～63年 IMF専務理事

Per Jacobsson(1894-1963)

IMF Managing Director, 1956-1963



Jacobssonの経済思想

- 「健全な通貨」「自由な市場」の称揚
- 金の重視
- ニューディール政策に対する批判：ニューディール政策が十分に効果を発揮しなかったのは、コストと物価の関係を無視したため。賃金の下方硬直性により、企業の投資意欲が損なわれた。

② 固定相場制を支えるBISの役割

- スワップ網の構築
- 1964年、66年のポンド救済
- 1961年の金プール創設

③ 非公式な国際金融機構に対するBISの支援

1962年1月 IMF資金を補強する目的でGAB（一般借入協定）が成立

⇒ GABの運営はIMFとは独立してGAB出資国が行う

⇒ GAB出資国によりG10（先進10カ国蔵相・中央銀行総裁会議）が設けられる

⇒ G10の下部組織としてOECD経済政策委員会設置（WP3＝第3作業部会）、G10事務局はBISに置かれる

4 国際資本移動規制

- IMF協定第6条第3項

「加盟国は、国際資本移動の規制に必要な管理を実施することができる。」

◆ケインズ案の起源はドイツの「新秩序」構想にある

- Van Dormealが1978年に提起

⇒ 岩本武和が国際資本規制と関連させて、研究を深めた。

- ドイツ経済相兼ライヒスバンク総裁Walther Funkによる1940年の「新秩序」構想
二国間の為替清算協定を多角化する。
決済の中心をライヒスバンクとする。

Walther Funk(1890-1960)

Minister of Economics, 1938-1945

President of the Reichs Bank, 1939-1945



◆ブレトンウッズ協定の形成過程で国際資本移動の問題はどのように取り扱われたのか？

- 当初のケインズ案・ホワイト案（1941～42年）
加盟国は資本移動規制を行う権利を有する。
規制を実施する場合は、双方の国が協力する。
- ニューヨーク金融界の反対
- ホワイト案の後退（1943年）
「生産的資本の国際移動を阻害する外国為替規制」は撤廃する。＝為替取引だけでなく、資本取引の自由化も義務付ける。
- ホワイトの修正案に対するイギリスの反対
- 国際資本移動規制の権利の明記。ただし、協定的資本規制は義務化せず。

◆1990年代後半のIMF協定改正問題

- 1990年代 IMFにおいて資本自由化の暗黙のコード化が進む
- 1994年7月 IMF・MAEが協定改正の提案
- 1997年7月 アジア通貨危機始まる
- 1997年9月 IMF年次総会（香港）、「国際資本移動の自由に関する声明」を採択
- 1998年春 アメリカの支持撤回
- 1998年8月 ロシア危機勃発

Michel Camdessus(1933-)

IMF Managing Director, 1987-2000



- 改正のポイント
為替自由化だけでなく、資本自由化も義務化すること
資本自由化をIMFの権限とすること。
- Jacques Polak（元・調査局長）の反対意見
「IMFの権限を資本規制にまで拡大するより、規制の緩和された現在の体制を維持する方が効率的だ」

5 発展途上国とIMF・世銀・国連

◆アメリカにとって「開発」は念頭になかったのか？

R.ガードナーの記述

世銀は「主として復興のための一機関として考えられていた。」

「『開発』という語はハリー・ホワイトの最初の草稿にさえ見られなかった。」

- ◆ 世銀構想の出発点は米州銀行構想にある。
- Robert W.Oliver, *International Economic Cooperation and the World Bank*, 1975
- Eric Helleiner, *Forgotten Foundations of Bretton Woods: International Development and the Making of the Postwar Order*, 2014
ブレトンウッズ会議参加44カ国中19カ国を占めるラテンアメリカへの着目。

- 戦時アメリカの善隣外交（Good Neighbor Policy）
 - 1939～40年 ホワイトの米州銀行協定作成への関与
 - 1941～42年 ホワイトのキューバ調査団への参加（通貨制度の改革）
 - 1943～44年 Robert Triffin（FRB）が参加したパラグアイ調査団（中央銀行創設）

◆国連の発足とIMF・世銀

- 1944年10月 ダンバートン・オークス会議（国連憲章を討議）
- 1945年6月 国連憲章調印
- 1945年10月 国連発足
- 1946年3月 国連経済社会理事会からIMF・世銀に対して連携の申し入れ
- 1947年11月 IMF、国連に対して専門機関としての独立性を承認させる。

◆経済社会理事会（ECOSOC）と完全雇用のための国際協調の模索

- 1949年8月 ECOSOC、失業対策に関する国際協力を検討する委員会設置
- 1949年末 報告書「完全雇用のための国内的・国際的手段」（Nicholas Kaldorが執筆）

先進諸国の需要不足によって生じた輸入減相当額を「後進国」の完全雇用達成のための資金として用いる案。

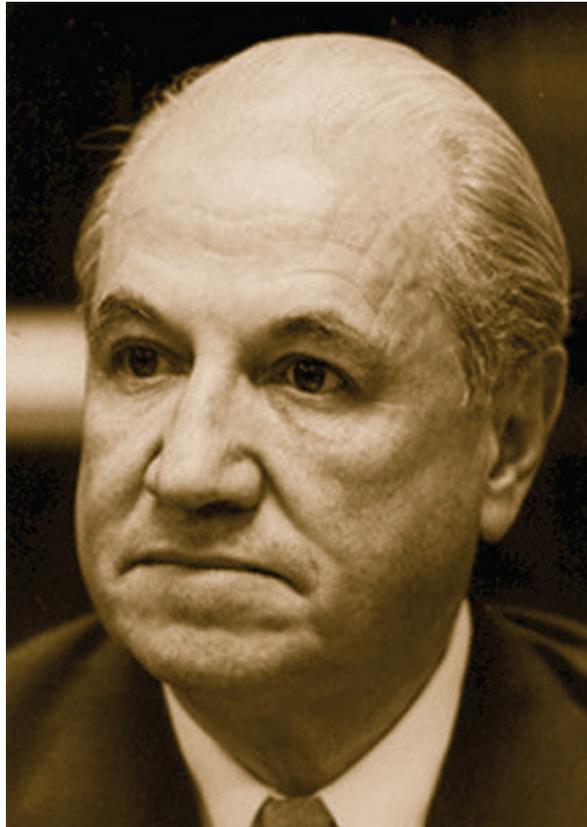
- ◆国連ラテンアメリカ経済委員会（ECLA）
 - 1948年 ECLA設置（チリのサンチャゴ）
 - 1949年 Hans Singer論文の公表（一次産品の交易条件の長期的悪化を指摘）

- ◆ECOSOC、ECLAの世銀・IMFへの影響
 - 1957年 ECOSOC、国連開発特別基金（SUNFED）の設立要求 ⇒ 世銀は対抗して1960年にIDA（第二世銀）を設立

 - ECLAの価格補償融資制度創設要求
⇒ 一次産品価格問題 1963年IMF保証融資制度

Raul Prebisch(1901-1986)

Secretary General of the UNCTAD, 1964-1969



[主要参考文献]

- 伊藤正直・浅井良夫編『戦後IMF史 創生と変容』名古屋大学出版会、2014年
- 岩本武和『ケインズと世界経済』岩波書店、1999年
- トレップ、G.（駒込雄治・佐藤夕美訳）『国際決済銀行の戦争責任』日本経済評論社、2000年
- 西川輝『IMF自由主義政策の形成』名古屋大学出版会、2014年
- フィッシャー他（岩本武和訳）『IMF資本自由化論争』岩波書店、1999年
- 牧野裕『IMFと世界銀行の誕生 英米の通貨協力とブレトンウッズ会議』日本経済評論社、2014年
- 矢後和彦『国際決済銀行の20世紀』蒼天社出版、2010年
- Abderal, Rawi, *Capital Rules: The Construction of Global Finance*, Harvard University Press, 2007
- Andrews, David M. ed., *Orderly Change: International Monetary Relations since Bretton Woods*, Cornell University Press, 2008

- Borio, Claudio, Gianni Toniolo, Piet Clement eds., *Past and Future of Central Bank Cooperation*, Cambridge University Press, 2008
- Chwieroth, Jeremy M., *Capital Ideas: The IMF and the Rise of Financial Liberalization*, Princeton University Press, 2010 (邦訳 矢野修一ほか訳『国家とグローバル金融』法政大学出版社)
- Helleiner, Eric, *States and the Reemergence of Global Finance: From Bretton Woods to the 1990s*, Cornell University Press, 1994
- Helleiner, Eric, *Forgotten Foundations of Bretton Woods: International Development and the Making of the Postwar Order*, Cornell University Press, 2014
- Oliver, Robert W., *International Economic Co-operation and the World Bank*, Macmillan, 1975
- Toniolo, Gianni with the assistance of Piet Clement, *Central Bank Cooperation at the Bank for International Settlements, 1930-1973*, Cambridge University Press, 2005
- Toye John & Richard Toye, *The UN and Global Political Economy: Trade, Finance and Development*, Indiana University Press, 2004